

# YAMAHA PortaSound PG-100

取扱説明書

**Playcard System**



# ごあいさつ

このたびはヤマハポータサウンドPC-100をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

PC-100は、常に新しい電子鍵盤楽器を誕生させてきたヤマハが、そのエレクトロニクス技術を駆使して作りあげた、画期的なキーボードです。

ポータサウンドの高級モデルとしての充実した表現機能に加え、磁気テープを採用したプレイカードシステムによって、聴く・弾く・歌う——と幅広く音楽がお楽しみいただ

けます。コンパクトなボディに多くの機能を装備したPC-100は、どなたでも親しめ、音楽の楽しさが大きく広がる楽器です。

本書では、PC-100を充分お楽しみいただくために、正しい取り扱い方をご説明しています。実際に操作しながら、ぜひ、ご一読ください。別冊の「プレイカードシステム・プレイメニュー」は、プレイカードでお楽しみいただくとき、お役立てください。

## 目次

	ページ
ご使用の前に	1
楽器の楽しさを大きく広げる、ポータサウンドPC-100	2
各部の名称とはたらき	4
トライ・ザ・キーボードノ	
● オーケストラ	6
● リズム	7
● オートベースコード	8
● プレイングノート	9
これが、プレイカードシステム	10
取り扱い上の注意	12
故障でない現象	13
楽しさをさらに広げるために。付属端子とオプション	14
仕様	16
アフターサービスと保証	17

# ご使用前に

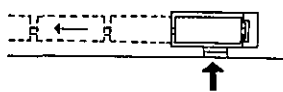
## 電源について

PC-100の電源は、電池、家庭用コンセント、カーバッテリーの3つを使用することができます。

### ●電池の入れ方

まず、本体裏面にあるケースのふたをとります。単2の乾電池を一行に6個入れます。このとき、⊕⊖の方向をまちがえないようご注意ください。

電源スイッチを入れたとき、スイッチの上のパイロットランプが点滅していたら、電池がなくなり始めています。新しいものと取りかえてください。



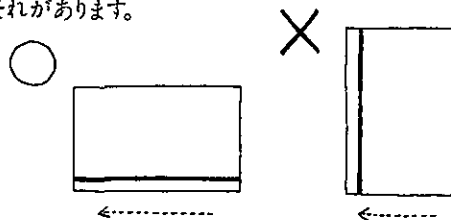
●家庭用コンセント、カーバッテリーを使用するときは、専用のアダプターを付属端子に接続します。(接続方法については、14ページをご参照ください)

●カーアダプター(別売)は、12Vマイナスアース車専用です。接続する前に、車のバッテリーが12Vのものであることを必ず確認してください。

## プレイカードの取扱いについて

ポータサウンドPC-100には、楽器本体のほかに、専用のプレイカード30枚とクリーニングカードがついています。プレイカードは、ステレオにとってのレコードと同様にお考えいただき、大切にお取扱いくださるようお願いいたします。プレイカードの取扱いに際しては、次の点にご注意ください。

- ①磁気テープの部分を折ったり、キズつけたりしないでください。
- ②本体にセットするときは、必ず指定された方向に入れてください。まちがって入れると、磁気テープにキズがつくおそれがあります。

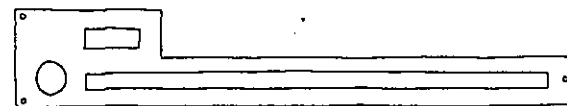


- ③強い磁場に近づけないようにしてください。スピーカー、アンプ、テレビのそばなど、強く磁気が作用しているところに近づけると、磁気テープに記憶されている大切なデータが消えてしまうことがあります。また、磁気ネックレス・リングなどの接触もさけてください。
- ④磁気テープには、直接指でふれないようにしましょう。

- ⑤水やアルコール類がかからないようご注意ください。もしかかった場合は、速かにふきとり乾燥させてからご使用ください。
- ⑥汚れが目立つ場合は、清潔でやわらかな布で軽くふきとりましょう。
- ⑦シンナーやベンジンなどを含む溶剤を、テープ面には絶対につけないでください。
- ⑧高温・多湿のところに保管するのはさけてください。
- ⑨長時間、直射日光の当たるところには置かないでください。
- ⑩ビニール袋(シートカバー)に入れて保管しましょう。ホコリなどから守るため、プレイカードを使わないときは、必ずシートカバーに入れるようにしてください。

## 和文シートについて

PC-100には、本体の各部の名称が和文で書かれたシートがついています。和文の方が便利という方は、シートに両面テープが貼付してありますので、本体にはってお使いください。なお、本書および「プレイカード・プレイメニュー」では、この和文の名称でご説明しています。



# 楽器の楽しさを大きく広げる、ポータサウンドPC-100

## 聴く・弾く・歌う プレイカードシステム。

ヤマハ独自のプレイカードシステムは、磁気テープを貼付したプレイカードを、カードリーダーに通すだけで、メロディーや伴奏など、音楽のデータを本体に記憶(メモリー)させ、自由に再生するシステム。プレイを使ったモデル演奏やメロディーオフを使ったマイナスイオン演奏で、聴く・弾く・歌う——とさまざまな音楽の楽しみ方ができます。

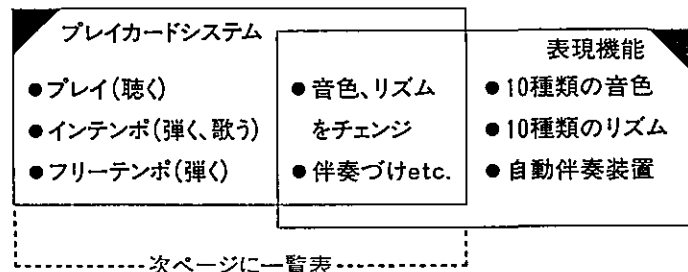
## プレイカードは、 バラエティあふれる曲がずらり。

歌謡曲からジャズまで、幅広いジャンルの中から、親しまれている曲を30曲選びました。コード入りの楽譜の裏面には、フィンガリング(指づかい)の説明や歌詞など、楽しいプレイに役立つプレイングアドバイスが書いてあります。もっとレパートリーをふやしたい場合には、別売のプレイカードもご利用いただけます。プレイカードライブラリーの充実が、PC-100の楽しさを倍増することでしょう。

## 充実した音楽表現機能。

ポータサウンドPC-100は、オルガンやピアノなど10種類の音色をもつ電子鍵盤楽器。多彩な音色に加えて、リズム、オートベースコード、アルペジオの3つのファンブロック(お楽しみ機能)が、鍵盤は初めてという方にも楽しく弾いていただける、大きな魅力となっています。

## ポータサウンドPC-100の機能構成



# 楽しさぎっしりプレイがもりだくさん！プレイメニュー。

プレイメニューは、プレイカードのいろいろな楽しみ方が、6枚のカードになっています。自分にあったメニューをみつけて、ご活用ください。たとえばこんなふうに。



## さあうたってみよう！ 1 2

まず、モデル演奏を聴きます。メロディーをおぼえたら演奏にあわせてうたってみましょう。メロディーをキャンセルすると、カラオケ気分。さらに、両手演奏しながらうたうと、ひきがたり気分。かんたんな操作で、いろいろな楽しみ方ができます。



## キーボードにチャレンジ！ 3 4 5 6

まず、自分のテンポで、インジケータランプを追いながらメロディーの練習。慣れてきたら、伴奏にのって演奏してみましょう。さて次は、自動伴奏の練習。メロディーにのって、オートベースコードの演奏です。右手と左手、それぞれの練習がおわたところで、両手演奏にチャレンジ！

鍵盤楽器が初めてという方でも、スムーズにマスターできるようになります。



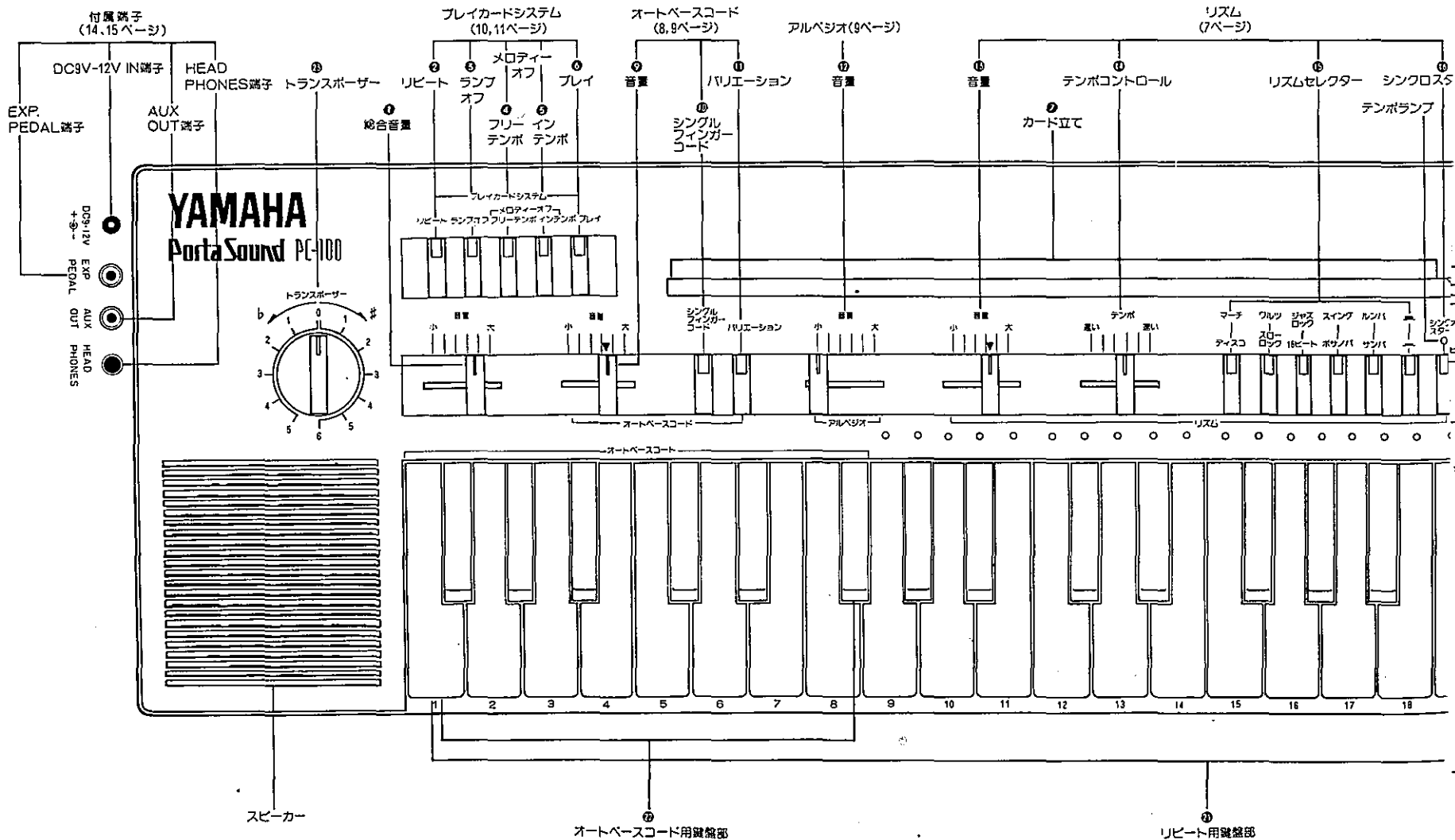
## 楽しさいろいろ多彩なプレイ 7 8 9 10

モデル演奏を聴いてメロディーの流れがつかめたら、カウンターラインをつけてみましょう。メロディーをキャンセルしてアドリブに挑戦してみるのもいいですね。身近かな楽器をくわえて、PC-100とアンサンブルすることもできます。メロディーをキャンセルして、得意の楽器でメロディーソロをのせたり、家族や友だちで楽器をもちよって演奏したり、多彩なプレイが楽しめます。

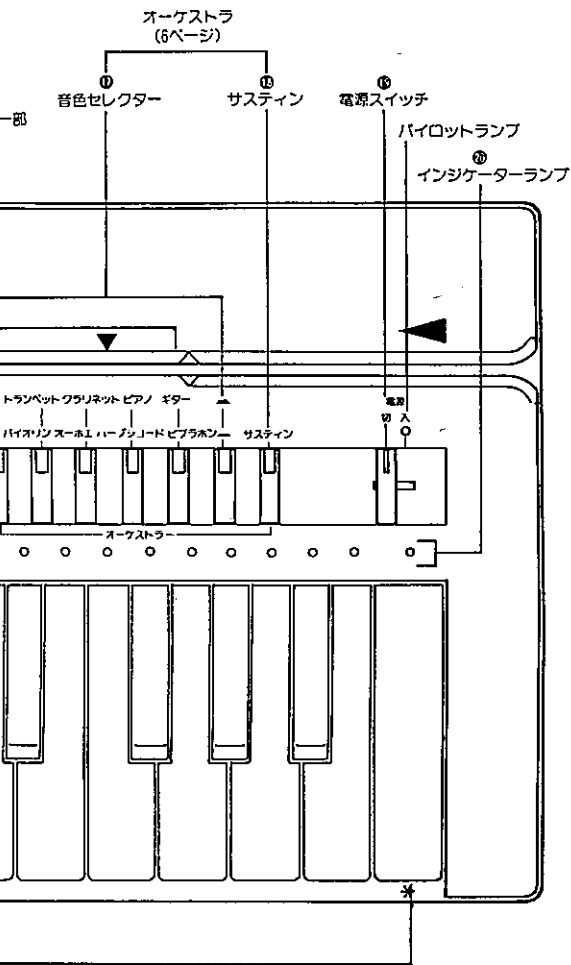
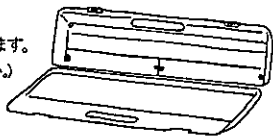
## プレイメニュー一覧

<p><b>プレイカードを おいしくたべよう！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●プレイカードのセットのしかた</li> <li>●プレイメニューのみかた</li> </ul>	<p><b>1</b>プレイカードがうたのバックオーケストラ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●プレイカードにあわせてうたう。</li> </ul>	<p><b>3</b>自分のテンポでメロディープレイ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●音を探しながらメロディー練習。</li> </ul>	<p><small>オートベースコード</small> <b>5</b>ABCプレイ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●プレイカードに伴奏をつける。</li> </ul>	<p><b>7</b>カウンターラインをつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●モデル演奏にもうひとつメロディーをのせる。</li> </ul>	<p><b>9</b>得意の楽器でメロディーソロを。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●メロディーをキャンセルして、他の楽器でメロディーをのせる。</li> </ul>
<p>プレイカード、またの名はペーパーレコード。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●プレイカードを聴く。</li> <li>●音色やリズムを変えてみる。</li> </ul>	<p><b>2</b>さらにうたがさえます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●メロディーをキャンセルしてうたう。</li> </ul>	<p><b>4</b>ランプを追ってメロディープレイ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●伴奏にあわせてメロディー練習。</li> </ul>	<p><b>6</b>両手でキーボードプレイ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●両手演奏。</li> <li>●ひきがたり。</li> </ul>	<p><b>8</b>アドリブに挑戦。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●メロディーのアドリブ練習。</li> </ul>	<p><b>10</b>楽器集合！アンサンブル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●プレイカードといろいろな楽器とのアンサンブル。</li> </ul>

# 各部の名称とはたらき



ハードケースの内側のラックには、  
プレイカードやプレイメニューが入ります。  
(カード保護のため片側5枚位にしてください)



**① 総合音量**

全体の音量を調節するレバーです。

**② リビート**

フレーズをリビートするときのセットボタンです。(プレイカードシステム)

**③ ランプオフ**

鍵盤部上のインジケータランプが消えます。(プレイカードシステム)

**④ フリーテンポ**

マイナスイオン演奏の再生ボタンです。弾く人のテンポにあわせて、インジケータランプがメロディーをリードします。(プレイカードシステム)

**⑤ インテンポ**

マイナスイオン演奏の再生ボタンです。一定のテンポで、インジケータランプがメロディーをリードします。(プレイカードシステム)

**⑥ プレイ**

モデル演奏の再生ボタンです。(プレイカードシステム)

〔※ ④⑤⑥は、プレイカードシステムを使用するときの、ON、OFFをかねています。〕

**⑦ カード立て**

プレイカードやプレイメニューが立てられます。

**⑧ カードリーダー部**

プレイカードの磁気テープのデータを読みとり、記憶(メモリー)します。

**⑨ オートベースコード用音量レバー**

オートベースコードの音量を調節するレバーです。(プレイカードシステム)のときは、オブリガード用音量レバーにもなります)

**⑩ シングルフィンガーコード**

自動伴奏への切りかえボタンです。

**⑪ バリエーション**

コードのバックパターンとベースパターンが変化します。

**⑫ アルペジオ用音量レバー**

アルペジオは、さざなみのような効果音です。アルペジオが必要なきときは、最小にセットしておきます。

**⑬ リズム用音量レバー**

リズム音の音量を調節するレバーです。

**⑭ テンポコントロール**

リズムのテンポを調節します。

**⑮ リズムセレクトター**

リズムの種類を選ぶボタンです。上下2段に表示されたリズムは、右端の上下セレクトターで選択します。

**⑯ シンクロスタート**

オートベースコード用鍵盤を押すと同時にリズムをスタートさせるボタンです。

**⑰ 音色セレクトター**

音色を選ぶボタンで、上下2段に表示された音色は、右端の上下セレクトターで選択します。

**⑱ サスティン**

音色に自然な余韻をつけるボタンです。

**⑲ 電源スイッチ**

パイロットランプが点灯すれば、電気が通じています。

**⑳ インジケータランプ**

メロディーの音の位置を示し、音の長さに比例して点灯します。右はしのランプは、プレイカードのデータを読みとったことを確認するランプをかねています。(プレイカードシステム)

**㉑ リビート用鍵盤部**

リビートをセットするとき押し鍵盤です。鍵盤の下の数字はフレーズナンバー、\*はフルリビートを示します。(プレイカードシステム)

**㉒ オートベースコード用鍵盤部**

オートベースコードを使って自動伴奏するとき、伴奏を受けもつ鍵盤です。

**㉓ トランスポーター**

半音ずつ、上下にそれぞれ半オクターブまで、キーを変えることができます。

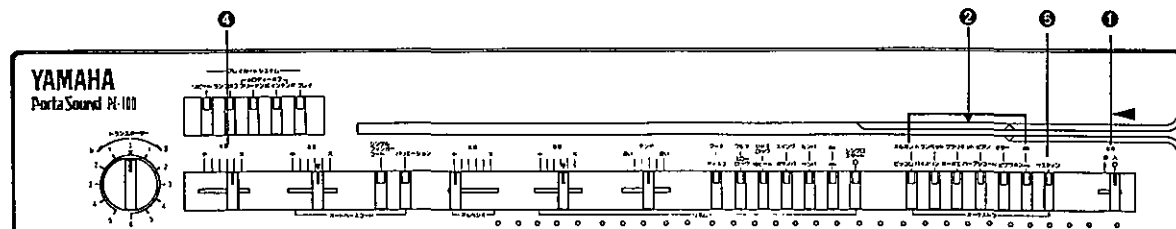
**★ピッチコントロール**

本体の裏面には、音程を微妙に調整できる、ピッチコントロールがついています。キャップをとって、小型マイナスドライバーでまわしてください。

# トライ・ザ・キーボード!

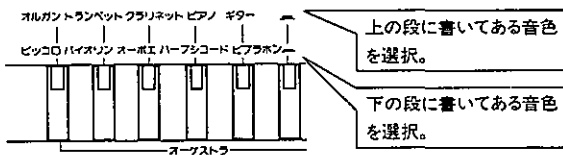
PC-100は、ポータサウンドの高級モデルとして、充実した音楽表現機能を持っています。ここでは、鍵盤楽器は初めてという方にも、かんたんにご理解いただけるよう操作法を説明していきます。

**オーケストラ** まず、好きな音色を選んで音を出してみましょう。



① 電源スイッチをON。

② 音色セレクターから、ひとつ選んでON。



それぞれのボタンの上には2つの楽器名が書かれていますが、右端の上下セレクター（赤いボタン）を押していないときは上段の音色に、押したときは下段の音色になります。（もういちど押すと上段の音色に戻ります）

③ 鍵盤を押さえてみる。

選んだ音色の音がでてきます。ほかの音色でも弾いてみましょう。

④ 総合音量レバーで音量を調節。

⑤ サスティンで音に余韻を。

音色セレクターの右にあるサスティンのボタンを押すと、鍵盤から指を離したあとも音が残って、自然に消えていきます。押したボタンをもういちど押すともとの状態に戻ります。（ビブラホンの音色にはあらかじめサスティンがセットされているので、ONしても変わりません）

★シングルフィンガーコードのボタンがONになっていると、オートベースコード用鍵盤部では、選んだ音色はできません。（8ページ参照）

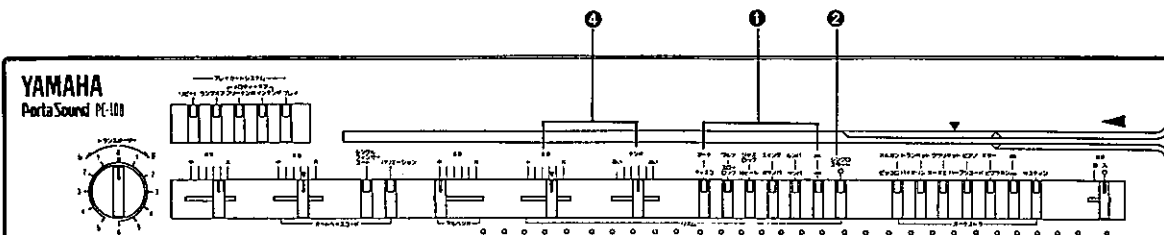
★同時に8つの音まで鳴らせます。

★音色セレクターのいずれも押していないときは、オルガン音色になります。

★同時に2つ以上の音色をONすると、右側の音色が優先します。

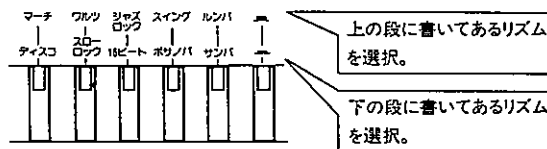


## リズム ドラムをくわえてリズムックプレイ



PC-100のリズムは、シンバル、スネアドラムなど、歯切れのよい打楽器音で軽快なリズムを自動的にきざみます。

### ①リズムセクターをひとつON。



リズムセクターは、音色セクターと同様に、右側の上下セクターで、上段、下段のリズムを選んでください。ワルツは3拍子、そのほかのリズムは4拍子です。

### ②シンクロスタートをON。

シンクロスタートのボタンの上のテンポランプはリズムの速さを示しています。これが点滅していたら、スタート準備完了。

### ③オートベースコード用鍵盤を押す。

オートベースコード用鍵盤をどれか押すと、リズムスタート。リズムは第1拍目から鳴りはじめます。テンポランプはそれぞれのリズムの1拍目に点灯します。いろいろなリズムをきいてみましょう。ストップするときは、シンクロスタートのボタンを、もういちど押します。

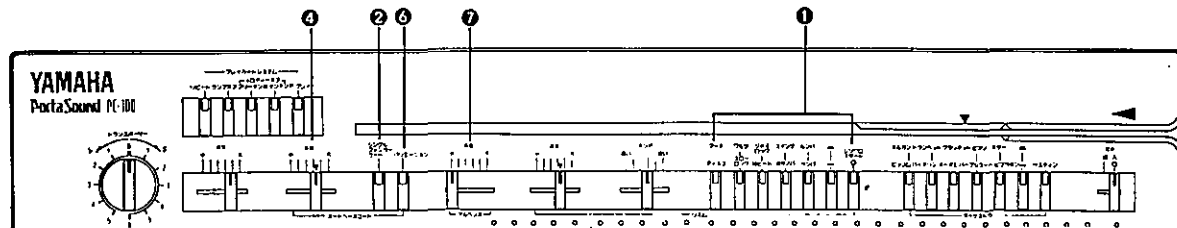
### ④音量とテンポを調節。

リズム用音量レバーで、リズムの音量を、テンポコントロールで、リズムの速さを調節。

★リズムセクターをいずれも押してないときは、リズムはマーチになります。

★同時に2つ以上のリズムをONすると、右側のリズムが優先します。

# オートベースコード 伴奏はコードにベースをくわえてオートプレイ



オートベースコード (AUTO BASS CHORD) は、和音とベース音による自動伴奏です。

①リズムセレクターとシンクロスタートをON。

②シングルフィンガーコードをON。

自動伴奏の準備完了。

③オートベースコード用鍵盤をどれかひとつ押さえる。

14鍵のうち、どれかひとつを押さえてみましょう。和音とベース音がリズムに合わせてでてきます。一度押さえると記憶 (メモリー) されますので、鍵盤から指を離しても、同じ伴奏が繰り返されます。ですから、コードをかえるときだけ、鍵盤を押しなおせばよいわけです。ストップするときは、シングルフィンガーコードまたはシンクロスタートのボタンを押します。

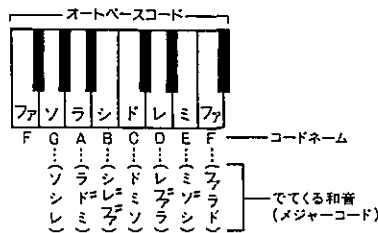


★コードを変えるとき、指を離さずにレガート (なめらかに) で動かすと、コードが変わらないことがあります。一度鍵盤から離してから押してください。

④オートベースコード用音量レバーで自動伴奏の音量を調節。

⑤プレイカードの曲を弾いてみましょう。

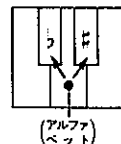
プレイカードの楽譜にはコードネームが入っています。また、プレイングアドバイスには、その曲に使うコードの鍵盤の押え方が示されています。



上の図は、オートベースコード用鍵盤をおさえる位置と、でてる和音の関係を示したものです。

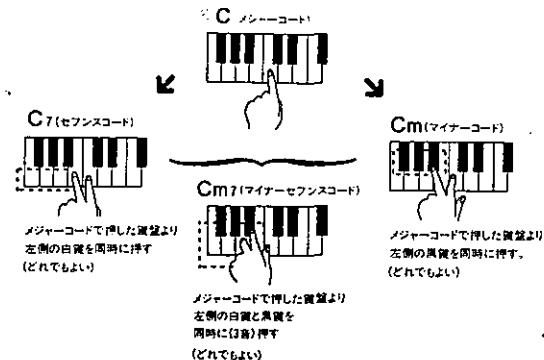
● #、b のついているコードの出し方

コードネームの中には、(B<sup>b</sup>) のように # (シャープ) や b (フラット) のついているものがあります。その場合、# がついたらその図の位置の右上の黒鍵を、b がついたら左上の黒鍵をおさえてください。



●セブンスコード、マイナーコードなどの出し方

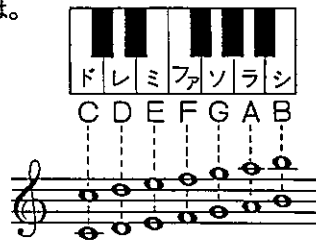
伴奏はメジャーコードだけに限らず、例えば (G<sub>7</sub>) のようなセブンスコード、(A<sub>m</sub>) のようなマイナーコードもよく使われます。これらのコードは、下図のように2つおよび3つの鍵盤を同時におさえることで出すことができます。



## プレイングノート

### ●五線譜の読み方は。

はじめに、鍵盤と五線譜の関係を示してみると……



### ●音符と休符の長さは。

音符の種類と名称	4分音符と比較した長さ	休符の種類と名称	4分休符と比較した長さ
全音符	↑↑↑↑ 4つ分の長さ	—	↑↑↑↑ 4つ分休む
付点2分音符	↑↑↑ 3つ分の長さ	—	↑↑↑ 3つ分休む
2分音符	↑↑ 2つ分の長さ	—	↑↑ 2つ分休む
4分音符	↑	—	—
8分音符	↑(↑)= 半分にする	7	7(77)= 半分休む
3連音符	↑↑↑ 3等分する		

(↑↑↑) は、を3等分

### ⑥バリエーションでベース音に変化を。

バリエーションは、オートベースコードによる自動伴奏のコードのバックギングパターンと、ベースパターンを変化させるボタンです。変化するパターンは、選んだリズムによって決まっています。

### ⑦さざ波のような自動アルペジオ伴奏

アルペジオとは、音を連続して奏でる分散和音的な奏法のこと。バックに流せば、華やかな演奏が楽しめます。リズム、オートベースコードをセットし、アルペジオの音量をあげます。アルペジオが不要のときは、音量を最小に。

★リズムをセットせずにオートベースコードを使うと、和音とベース音の伴奏はリズムに乗らない音(持続音)になります。曲によっては、こちらの方が効果的な伴奏ができます。また、リズムに合わせづらいときも、持続音の伴奏で練習するとやさしくできます。

★オートベースコードを使って伴奏するとき、メロディー用鍵盤部では、同時に4音まで鳴らせます。(アルペジオを入れると3音まで)

★リズムとオートベースコードを同時に使うとき、伴奏の音色は、音色セクターで選んだ音色と関係なくピアノの音色になります。リズムを使わない持続音の伴奏のときは、オルガンの音色になります。でてくる音は、オブリガートで使われている音色です。

### ●プレイカードに使われている記号を覚えましょう。

記号とよみ方	意味	記号とよみ方	意味
# シャープ	半音あげる	フェルマータ	その音をのばす
b フラット	半音さげる	Arp. アルペジオ	アルペジオを入れる
ナチュラル	もとの音にもどす	4小節分メロディー演奏休み	
タイ	音を続ける	Fine フィーネ	おわり
スラー	なめらかに		

●では、実際に五線譜を見てください。これだけ知っていれば、いつでも弾けます。

この音(ファ)を半音あげる(※りの場合は半音さげる)

リズム(3拍子・ワルツ)

コードネーム(伴奏)

ハッ ビー バース デイ トゥ ユー

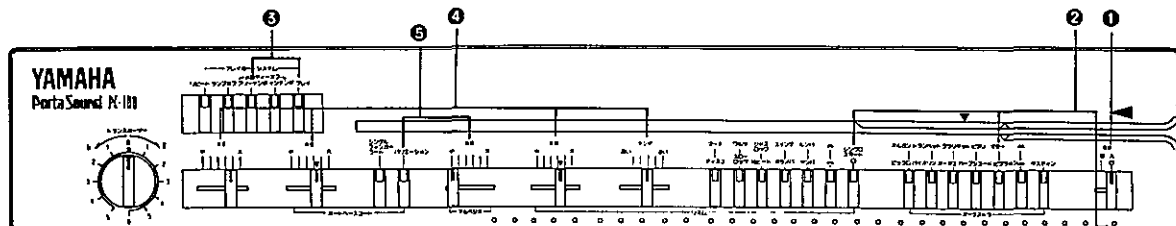
1小節

メロディー

記号とよみ方	意味
リビート	くりかえし
1番かっこ 2番かっこ	くりかえしのあとへ。
D.C. グカーボ	最初から。 Fine D.C.
D.S. ダルセーニョ	記号から。 Fine D.S.
♠ Coda コーダ	くりかえしのあとへ。♠ Coda

# これが、プレイカードシステム

プレイカードシステムは、プレイカードの磁気テープのデータを、本体のカードリーダーが読みとり記憶(メモリー)、本体のスピーカーを通して、メロディーにオブリガート(助奏)と伴奏などのついた曲を再生するシステムのことをいいます。プレイカードにはさまざまな使い方、楽しみ方があります。(詳しくは別冊のプレイメニューをごらんください)



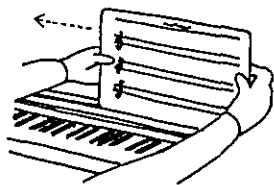
## 操作のしかた

①電源スイッチをON。

②プレイカードをカードリーダーに通す。

プレイカードをシートカバーから取り出し、磁気テープの部分をカードリーダーのみぞに対して水平に入れ、右から左へスライドします。このとき、右はしのインジケータランプの点灯で、カードリーダーがデータを読みとったことを確認できます。

プレイカードの両面に磁気テープが貼付してあるものは、両面ともカードリーダーを通してください。(このとき、どちらの面からでもOK)片面しか通していないときはランプが点滅します。



★カードをセットしたとき点灯したランプは、数秒後に消えます。

③ボタンを選んでON。

通したカードはカード立て部に立てておきます。(ランプが点灯したあとならぬいてもかまいません) プレイ、インテンポ、フリーテンポのいずれかのボタンを選び、押すと、曲がスタートします。曲の途中でストップするときや、曲がおわってもういちどスタートするときも、いずれかのボタンを押します。

●プレイを押すと——メロディーにオブリガートとリズムと伴奏のついたモデル演奏が再生されます。鍵盤部の上のインジケータランプが、メロディーの音の動きを示します。(白鍵一赤、黒鍵一黄)

★シングルフィンガーコードをONすると、伴奏が消えて、メロディー+オブリガート+リズムの曲で再生され、伴奏づけ(8、9ページ、オートベースコード参照)が自分でできます。

●インテンポを押すと——メロディーがキャンセルされてマイナスワン演奏が再生されます。鍵盤部の上のインジケータランプがメロディーの音の動きを示しますから、メロディーをうたったり、ランプを追ってメロディーの演奏が楽しめます。

★シングルフィンガーコードをONすると、伴奏が消えて、オブリガート+リズムの曲で再生され、メロディー演奏と伴奏づけが、自分でできます。

★インテンポで再生するとき、インジケータランプは、メロディーの音の動きをリードしますが、インテンポとプレイを同時に押して再生すると、ランプはちょうどメロディーの動きどおりに点灯します。

●フリーテンポを押すと——インジケータランプが示すメロディーの音を押さないと、曲が進みません。鍵盤をゆっくり押すと曲は遅くなり、はやく押すと速くなります。ランプは、押した鍵盤の次に押すべき音を示しますが、同じ鍵盤を続けて2回以上押す場合は、ランプが一度消えてもういちどつきます。

★シングルフィンガーコードをONすると、伴奏が消え、オブリガート+リズムの曲が弾く人のテンポで再生され、オブリガートの入り方がよくわかります。

#### ④音量とテンポを調節。

テンポの速さはテンポコントロールで、リズムの音量はリズム用音量レバーで（最小ではリズム音がきこえません）、全体の音量は、総合音量レバーで調節。また、オブリガート、伴奏の音量は、オートベースコード用音量レバーで調節します（最小ではきこえません）。普通、めもりの▼の位置にセットしておきます。

#### ⑤曲に変化を。

●プレイカードで演奏している時、本体のセレクターによって音色やリズムを自由にかえることができます。（ただし、4拍子の曲にワルツをセットしても曲は4拍子のまま進みます）

●バリエーションをONすると、伴奏に変化がつけられます。（9ページ参照）

●アルペジオをくわえると、さざ波のような伴奏がつけます。（プレイカードシステムでは、シングルフィンガーコードをOFFの状態使います）

## リピートの操作

リピートは、プレイカードのフレーズや曲の全部を繰り返して再生したいときに使います。

①プレイカードの五線譜の上にフレーズナンバーが入っています。リピートしたい部分を選びます。


②本体の鍵盤の下に1～20のナンバーがふってあります。リピートのボタンを押したままリピートする部分のナンバーの鍵盤を押します。例えば、③と④をリピートするときは、③と④の鍵盤を押します。これでセット完了。曲の全部をリピートするときは、リピートのボタンを押したまま、右はしの\*マークの鍵盤を押します。（フルリピート）



③プレイ、インテンポ、フリーテンポのいずれかを押してスタートすると、リピート指定した部分が繰り返して再生されます。ストップするときは3つのうちいずれかのボタンを押します。ストップすると、リピートはキャンセルされます。

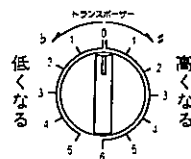
★フレーズナンバー③と④をセットした場合は、③から④のすべてのフレーズがリピートされます。

## ランプオフの使い方

ランプオフのボタンを押して、の状態になっているあいだは、メロディーを示すインジケーターランプがキャンセルされます。

## トランスポザーの使い方

プレイカードで再生される曲や、鍵盤で演奏するときのキー（音程）を半音ずつ変えることができます。曲の途中でも調整OK！



PC-100にあわせてうたうとき、うたう人の声の高さに調節できます。また、音の位置を移動し、やさしいハ長調の弾き方でメロディー演奏が楽しめます。

★一度カードリーダーが読みとったデータは、電源を切らない限り記憶されています。また、ちがうカードを通すと、その前のカードのデータは自動的にキャンセルされます。

★プレイカードで演奏しているとき、鍵盤では同時に3音まで鳴らせず（アルペジオを入れると2音まで）

★リズムフィルインの位置やオブリガートの音色は、本体の操作で変えることはできません。

# 取扱い上の注意

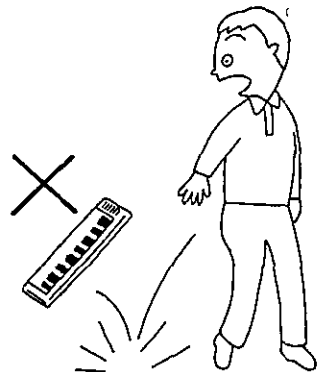
PC-100をながくお楽しみいただくために、次の点にご注意ください。

- 電池が消耗すると、雑音を生じたり、誤作動の原因となることがあります。電池を全部新しいものと取りかえてください。
- カードリーダーや音量レバーなどのすきまに、ホコリや異物、特に、ヘアピン、針、硬貨などの金属物が入らないようお気をつけください。異物が入りますと、故障の原因となることがあります。また、ほこりの多い場所での使用もさけてください。
- PC-100のスピーカーには、磁石を使用していますので、プレイカードやキャッシュカードを近づけすぎないようにしてください。
- ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。電源が入ったまま長時間放置しておくと、故障の原因となることがあります。また、長い間使わないときは、電池を本体からぬいておいてください。電源アダプターの場合も、使わないときは、プラグをぬいておいてください。

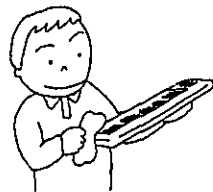
- 特に湿気が多い場所に置くことはさけてください。
- 強い直射日光に長時間さらすことはさけてください。



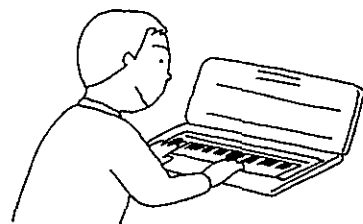
- 過度な衝撃や無理な力を加えると、傷がついたり、故障の原因となることがあります。本体を落としたり、上に座ったりしないように注意してください。



- 暖房器具のそばに置いたり、日中、車内に長時間放置しておくことはさけてください。車の窓を閉めきっているとき、直射日光が当たっていると、車内の温度は80℃以上にもなります。極端に温度が高い場所(60℃以上)に置いておくと本体の外側や内部に悪影響を与え、故障の原因となることがあります。
- 本体のお手入れは、乾いた柔らかい布でカラぶきしてください。よごれの目立つときは、少し水で湿らせた布でふいてください。アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。



- ホコリや衝撃から守るため、ご使用にならないときは、ケースに収めるようにしてください。



# 故障でない現象

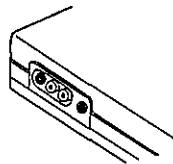
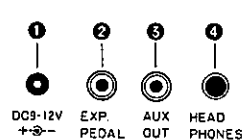
現象	原因	解決法
音色セレクターで選んだ音色とは別の音色が出る。	①上下セレクターを操作していない。 ②オートベースコードを使っているとき、オートベースコード用鍵盤部で弾いている。	①6ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。 ②オートベースコードを使っているとき、オートベースコード用鍵盤部では、オルガンの音色がでます。
鍵盤を同時に9音おさえても8音しかでない。また、シングルフィンガーコードをONしたとき、メロディー用鍵盤部では、同時に5音押しても4音しかでない。	鍵盤の音は、同時に最高8音までしかでないようになっています。また、オートベースコード使用時は、メロディー部で同時に4音まで、アルペジオを入れると3音までしかでないことになっています。	先におさえた音が優先します。
リズムの音がでない。	①シンクロスタートが押されていない。 ②オートベースコード用鍵盤部を押していない。 ③リズムの音量が最小になっている。	7ページの説明をよんで操作もれがないかどうか確認してください。
リズムセレクターで選んだリズムとは別のリズムがでてくる。	①上下セレクターを操作していない。	
オートベースコードの音がでない。またはリズムにのらない。	①シングルフィンガーコードのボタンが押されていない。 ②オートベースコード用鍵盤部を押さえていない。 ③オートベースコード用音量が最小になっている。 ④シンクロスタートが押されていない。	8、9ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。
アルペジオの音がでない。	①リズムまたはシングルフィンガーコードがセットされていない。 ②アルペジオ用音量が最小になっている。	
音がひずむ。	PC-100の音量は大きめにセットされていますので、すべての音量を最大にするとひずむことがあります。	音量を調節してください。
パイロットランプが点滅する。	①電池がなくなりかかっている。 ②音量が大きいとき、一時的に電圧がさがするため。	①新しい電池をご用意ください。 ②ご心配いりません。
ステレオに接続したり、FMトランスミッターを使ったりすると、音がひずむ。	総合音量が最大になっているとひずむことがあります。	最大より1めりり以上さげてください。

## ●プレイカードシステムを使用する場合

現象	原因	解決法
曲が再生されない。	①カードリーダーが、プレイカードのデータを完全に読みとっていない。	もういちどセットしなおして、インジケータランプの点灯を確認してください。
伴奏がきこえない。	①シングルフィンガーコードのボタンがONになっている。 ②オートベースコード用音量が最小になっている。	10、11ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。
リズム音がきこえない。	①リズム用音量が最小になっている。	
本体でセットした音色やリズムで曲が再生されない。	曲を再生する前にセットした音色やリズムは、無効です。曲をスタートしてから音色やリズムをかえることができます。	
セットしたバリエーションがかからない。	曲を再生する前にセットしたバリエーションは無効です。バリエーションは、曲をスタートしてからかかります。	
サスティンのかかり方が少しちがう。	プレイカードで再生するメロディーにはサスティンは短かかります。	
演奏しているとき、鍵盤を同時に4音押しても3音しかでない。	プレイカードシステムで演奏しているとき、鍵盤では同時に3音まで、アルペジオを入れると2音までしかでないようになっています。(プレイカードシステムの中でシングルフィンガーコードを使うときは、メロディー用鍵盤において3音)	先におさえた3音が優先します。
プレイで演奏しているとき、鍵盤で鳴らした音色が変化してきこえる。	鍵盤を押すタイミングによって、一瞬音色が変化してきこえることがありますが、ご心配いりません。	

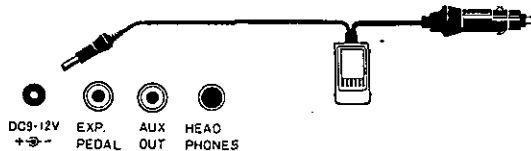
# 楽しさをさらに広げるために。付属端子とオプション

PC-100の本体左側には、図のような付属端子がついています。これらを活用すれば、楽しさはいっそう広がります。



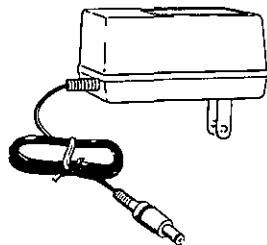
## ①DC 9V-12V IN端子

家庭用コンセントやカーバッテリー(シガーライターソケット)から電源をとるときには、この端子を使います。専用のアダプターを接続してください。



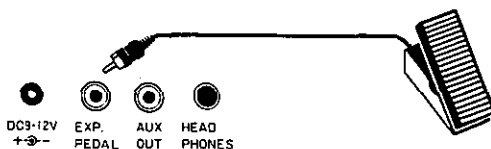
## オプション(別売)

- 電源アダプター(PA-1)  
AC100V(家庭用コンセント)から、DC12Vを取り出す電圧変換器です。本体の{DC9V-12V IN}へ電源を供給します。



## ②EXP. PEDAL端子

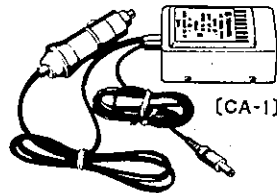
- エクスプレッションペダルは、演奏中、足で自由に音量を調節することができるペダルです。このEXP. PEDAL端子に接続してお使いください。



- 専用マイクをお使いになるときも、この端子に接続します。

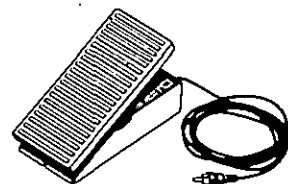
## ●カーアダプター(CA-1)

車のシガーライターソケットから本体へ電源を供給します。このアダプターは、異常電圧から本体を保護するための回路を内蔵しています。



## オプション(別売)

- エクスプレッションペダル(EP-1)  
音量を自由にコントロールできるフットペダルです。EP-1を取り付けることで、表現力をいっそう幅広いものにすることができます。



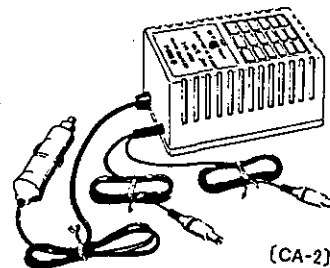
## ●アンプ付エコーマイク(EM-100)

EM-100は、アンプ、電子エコーを内蔵しています。EM-100を接続すると、フレイカードでうたうとき、より楽しさが増します。ステレオに接続することもできますので、カラオケ用としてもお使いいただけます。



## ●カーアダプター(CA-2)

接続コードが2つに分かれているタイプで、本体と同時にトーンボックスなどへの電源が取りだせます。



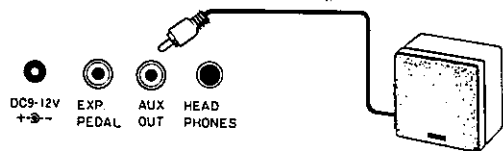


### ③AUX OUT端子

A.より豊かな音量で、

PC-100は、内蔵のスピーカーでも十分な音量でお楽しみいただけますが、より大きな音量が必要なときには、このAUX OUT端子を使って、アンプや専用スピーカー(TO-100)などに接続してください。迫力あるサウンドが楽しめます。

また、ステレオなどのスピーカーから音を出したいときにも、この端子を使います。ステレオなどのLINE IN (AUX IN) ジャックに接続してください。

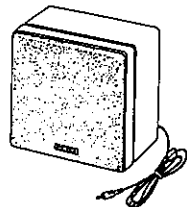


### B.演奏を録音

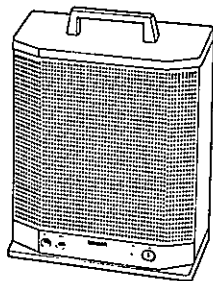
PC-100の演奏を録音したいときは、このAUX OUT端子を使って、テープデッキのLINE IN (AUX IN) ジャックに接続してください。録音レベルは、テープデッキで調整できます。

### オプション(別売)

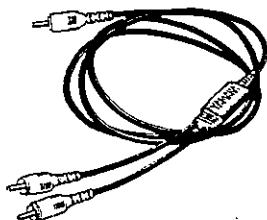
●スピーカー(TO-100)  
TO-100は、PC-100専用の外部スピーカーです。AUX OUT端子やHEADPHONES端子に接続してより豊かな音量で演奏を楽しむことができます



●トーンボックス(TO-1)  
TO-1はPSシリーズ専用の外部スピーカーで、アンプを内蔵しています。TO-1を接続すると、より豊かな音量で演奏を楽しむことができます(出力5W)

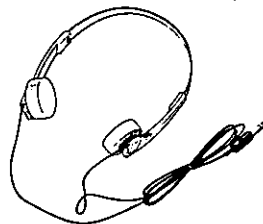


●分岐接続コード(PC-2)  
出力をステレオに接続して録音したり、ステレオ装置で音をだしたいときに使う分岐接続コードです



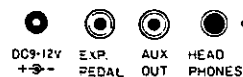
### オプション(別売)

●ヘッドホン(YH-50)



### ④HEADPHONES端子

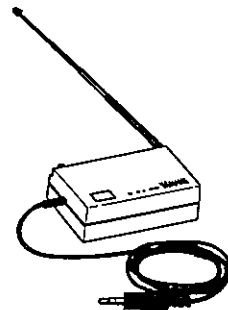
●ヘッドホンを接続する端子で、ステレオ、モノラルどちらのタイプのヘッドホンでもご使用になれます。ヘッドホンを使うと、本体のスピーカーからは音が出ませんから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。



●FMトランスミッターをお使いになるときも、この端子に接続します。[専用スピーカー(TO-100)を接続することもできます。このとき、本体のスピーカーからは、音は出ません]

●FMトランスミッター  
[PTM-1]

PTM-1は、FMステレオなどの受信機に発信することができます。コードが不要ですから、よりアクティブな楽しみ方ができます



# 仕様

## ▶鍵盤数

44鍵(F<sub>1</sub>~C<sub>5</sub>)

## ▶音色

オルガン——ピッコロ

トランペット——バイオリン

クラリネット——オーボエ

ピアノ——ハーブシコード

ギター——ビブラホン

上下セレクター

## ▶効果

サステイン(ビブラホンを除く)

ディレイビブラート組込

## ▶リズム

マーチ——ディスコ

ワルツ——スローロック

ジャズロック——16ビート

スイング——ボサノバ

ルンバ——サンバ

上下セレクター

〈コントロール〉

シンクロススタートスイッチ

テンポコントロール

リズム用音量レバー

テンポランプ

## ▶オートベースコード

シングルフィンガーコード

バリエーション

〈コントロール〉

オートベースコード用音量レバー

## ▶アルペジオ

アルペジオ用音量レバー

## ▶プレイカードシステム

リピート

ランプオフ

フリーテンポ

インテンポ

プレイ

〈コントロール〉

オブリガート用音量レバー

(オートベースコード用音量レバーと共用)

鍵盤インジケータランプ

プレイカードデータ入力ヘッド

## ▶コントロール

電源スイッチ

パイロットランプ

総合音量レバー

トランスポーザー(±半オクターブ)

ピッチコントロール(± $\frac{1}{4}$ 音)

## ▶付属端子

HEADPHONES 端子

AUX OUT 端子

EXP. PEDAL 端子

DC 9V-12V IN 端子

▶メインアンプ 1.4W

▶スピーカー 7.7cm(6Ωインピーダンス)

▶定格電源電圧 DC9V:単2乾電池6個

電源アダプター

カーアダプター

▶消費電力 3.3W(電源アダプターPA-1  
使用、オルガン最大音量時)  
2.2W(電池使用、オルガン最  
大音量時)

★電池使用可能時間——およそ10時間  
(パイロットランプ点滅はおよそ7時間使  
用後)

★プレイカードシステム、専用スピーカー  
(TO-100)使用時——およそ6時間  
(パイロットランプ点滅はおよそ4時間使  
用後)

▶寸法・外装 間口62.3cm、奥行18.6cm、  
高さ4.3cm、重量2.3kg(電  
池を含む)  
ABC樹脂、アクリルラッカー  
仕上げ

## ▶付属品

専用ハードケース

単2乾電池6個

プレイカード30枚

クリーニングカード1枚

和文シート

# アフターサービスと保証

●サービスのご依頼は、お買い上げ店へ直接お申し付けください。

■本機の保証は、保証書によりご購入日から満1か年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。

■保証期間の1か年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

## ■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整をいたします。

## ■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、まず本書の“故障でない現象”の項をい一度お読み頂き、お確かめください。(ご依頼をお受けして点検いたしますが故障でない場合でも点検代を申し受けませんのでご注意ください。)

## ■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。また勤めて昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万が一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならぬようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

## 〈お客様ご相談窓口〉

### 東京電音サービスセンター

- 東京ステレオサービスステーション
- 東京電音サービスステーション
- 横浜電音サービスステーション
- 新潟電音サービスステーション

### 大阪電音サービスセンター

- 大阪ステレオサービスステーション
- 大阪電音サービスステーション
- 四国電音サービスステーション

### 名古屋電音サービスセンター

- 名古屋電音サービスステーション
- 北陸電音サービスステーション
- 浜松電音サービスステーション

### 九州電音サービスセンター

- 九州電音サービスステーション
- 広島電音サービスステーション

### 北海道電音サービスセンター

- 北海道電音サービスステーション

### 仙台電音サービスセンター

- 仙台電音サービスステーション

## 〈お預り品修理拠点〉

- 東京電音サービスデポ
- 大阪電音サービスデポ
- 名古屋電音サービスデポ
- 九州電音サービスデポ
- 北海道電音サービスデポ
- 仙台電音サービスデポ

(本 社)

営業技術部 電音サービス課

☎(03) 572-3341

☎(03) 255-2241

☎(03) 572-3341

☎(045)212-4852

☎(0252)43-4321

☎(06) 877-5262

☎(06) 445-6421

☎(06) 877-5262

☎(0878)33-2233

☎(052)231-2432

☎(052)231-2432

☎(0762)43-5431

☎(0534)56-9211

☎(092)472-2137

☎(092)472-2137

☎(08287)4-3787

☎(011)781-3621

☎(011)781-3621

☎(0222)95-6111

☎(0222)95-6111

☎(03) 904-4986

☎(03) 904-4901

☎(06) 877-5262

☎(052)231-2432

☎(092)472-2137

☎(011)781-3621

☎(0222)96-0249

☎(0534)65-1111

〒104 東京都中央区銀座7丁目11-3(矢島ビル4F)

〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F)

〒104 東京都中央区銀座7丁目11-3(矢島ビル4F)

〒231 横浜市中区本町6-61-1

〒950 新潟市万代1-4-8(シルバーボールビルヤマハ新潟センター2F)

〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)

〒550 大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F)

〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)

〒760 高松市南新町6-1(岡田ビル2F)

〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7

〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7

〒921 金沢市泉本町7-7

〒430 浜松市東伊場2-14-1

〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3

〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地

〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地

〒983 仙台市原町南目字薬師堂北21

〒983 仙台市原町南目字薬師堂北21

〒171 東京都練馬区高野台2-3-10

〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)

〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7

〒812 福岡市博多駅前2-11-4

〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地

〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター3F)

〒430 浜松市中沢町10-1

本 社 / 〒430 浜松市中沢町10-1  
TEL0534(65)1111

東京支店 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18/ノパールビル内  
TEL03(572)3111

大阪支店 / 〒542 大阪市南区末吉橋4-8/心斎橋プラザビル  
TEL06(251)1111

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28  
TEL052(201)5141

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL092(472)2151

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-1/ヤマハセンター内  
TEL011(512)6114

仙台支店 / 〒983 仙台市原町南目薬師堂北2-1  
TEL0222(95)6111

広島支店 / 〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F  
TEL082(221)4122

浜松支店 / 〒430 浜松市田町32/東京海上ビル  
TEL0534(54)4116

